



みなさんお元気ですか。ご無沙汰しております。4月5日にロンドンに到着して、早くも12月。言い訳でもなんでもなく、恐ろしく忙しい仕事と生活面での煩雑な手続き、激しい寒暖差等々で、この間は後ろを振り返る余裕もなく、また前もはっきりとは見えていない状況の中、なんとかここまで来ました。今号は、まずは学校の紹介を。

驚きの子どもたち

ロンドン日本人学校では、5年生2クラスのうちの1クラス19人を担任しています。学習指導面でも生活指導面でも、また学校でも家庭でも大きな問題はほとんどなく、学級の指導自体は楽しくやりがいのあるものです。いわゆる“主体的・対話的で～”の学習に応えられる子供が多く、「自分たちで」深い学びを模索していくような授業を開くことができます。そして、小学校で最大の難関ともいえる5年生算数のほとんどの単元テストで、（私の力量とは関係なく）半分以上の子が満点をとるほどに習熟を図ることができます。それだけに保護者の期待は大きく、油断はできないのが贅沢な悩みです。



職場環境と恐怖の「教育水準監査局」

School progress monitoring inspection report

Ofsted
raising standards
improving lives

The Japanese School
87 Crefield Road, Acton, London W3 9PU

Inspection dates
12 March 2024

Overall outcome
The school does not meet all of the independent school standards that were checked during this inspection

Main inspection findings

Part 3. Welfare, health and safety of pupils
Paragraphs 7(a), 7(b) and 32(1)(c)

At the previous inspection in June 2023, these standards were not met as a result of ineffective safeguarding arrangements. At that time, leaders had not ensured that staff were sufficiently trained or knowledgeable about statutory safeguarding guidance. Staff had a limited understanding of key risks that pupils might face, including, for example, online bullying and exploitation.

This progress monitoring inspection found that leaders, including the members of the committee based have taken a range of sensible actions to address the previous

反面、労働環境としては、これまでに経験したことがない大変さです。まず、学期中に自己都合での年休を取得することが難しい状況です。校長や事務局長の判断による「緊急性」がないと休めません。単身で渡英していますと、どうしても平日にしか行うことのできない手続きがありますが、これも、運動会の代休や長期休みまで待たねばなりません。現地採用教員の勤務条件とのバランスや保護者の目、シンプルに手が足りない状況など、理解はできますが、クオリティオブライフを保つのは、なかなか難しい状況です。

また、イギリスには「教育水準監査局=Ofsted（オフsted）=Office for Standards in Education」の監査、という大きなハーネ

ドルがあります。教育水準監査局は、公的機関ではありますが、教育技能省から独立した準政府機関で、イギリスにおける学校の教育充実度の公的指針となっています。この監査で学校が取り潰しになったり、校長先生が命を絶ったりするほどなので、なかなかに恐れられています。イギリス国内にある日本人学校も対象になります。そのため、日本人学校でも、この Ofsted 監査をクリアするための研修が多く行われています。監査項目はさまざまで、生徒や教師の学習に関することや態度・質などはもちろん、学習設備からトイレに至るまで、学校設備もチェックされます。年に一回程度、抜き打ちで担当者が来校し、教員や児童生徒も聴取をされます。一応通訳はつくので質問を理解することができるのですが、教員への質問の中身が、“イギリスの”児童虐待の定義だったり、“イギリスの”LGBTQへの配慮のあり方だったりなど、そのための予習が必要なものも多く、なかなか骨が折れるものになっています。ちなみに、ロンドン日本人学校は2年連続で「不適格」になっています。学校運営の項目で不適格をもらっているようですが、今年はどうなるのでしょうか。（その後、10月初めの臨時の抜き打ち監査で、何とか仮の合格はもらいました…。）